

4月1日

住民の足を守るため  
「さだとう号」いざ出陣



衣川地域の地区内交通「さだとう号」の出発式が衣川総合支所で開かれ、試験運行がスタートしました。「さだとう号」は、持続可能な公共交通を構築するため、市と地区振興会、交通事業者の協働により導入した予約型乗合タクシーです。地域内の71カ所の指定乗降場所を結び、地域住民の足としての活躍が期待されます。

4月3日

岩手競馬 2022 シーズン開幕



岩手競馬の22年度シーズンが水沢競馬場で開幕しました。開幕セレモニーでは、県調騎会騎手部長の村上忍騎手が「馬に関わる全ての人たちの思いを乗せ、全身全霊を尽くし走り続ける」と宣誓。『HORSE&HOPE 駆け抜けたその先に。』を新シーズンのキャッチコピーに掲げ、初日から熱いレースが繰り広げられました。

4月8日～5月5日

幻想的に照らされる  
満開の桜



奥州商工会議所江刺支所が主催する「江刺桜まつり」が、旧岩谷堂共立病院や館山史跡公園などを会場に開催されました。桜が満開となった4月16日には、多くの人々が来場し桜を楽しみました。夜にはソメイヨシノやシダレザクラなどの周辺に設置された約400個のぼんぼりやライトが点灯され、昼間とは違った幻想的な雰囲気で見客を魅了しました。

4月9日

親子で深める交流  
食育と恐竜の歴史を学ぶ



ボランティア団体「食を育む会」主催の「子どもひろば」が、江刺愛宕地区センターで開催されました。食と学びの場を提供する同会。この日は親子13人が参加し、県立博物館の望月貴史学芸員が岩手にまつわる恐竜についての講演を行いました。終了後には、食材にこだわって作られたお弁当も配られ、子どもたちは笑顔を見せていました。

4月10日

だるまに入眼し事故撲滅を願う



市交通安全対策協議会は、胆沢地域で交通安全祈願式を行いました。交通安全地蔵尊前広場で祈禱後、交通事故ゼロを願ってだるまに入眼。事故防止を誓いました。感染防止のため、例年行われていたリレー形式のだるまへの署名は見送りに。後日、地域の代表者が個別に地区センターを訪れ、交通安全を祈願して書面への署名を行いました。

4月10日

癒やしの音色が古刹を包む



音楽家・守時タツミさんのコンサート「景色の見える音楽会」が正法寺で開かれました。元市地域おこし協力隊の小川ちひろさんらの呼び掛けで実現したもので、3年ぶりの開催となります。守時さんは、自然の音から着想を得た曲をキーボードで演奏。南部鉄器の風鈴など奥州市の音を盛り込んだ曲も披露し、聴衆を癒やしの世界へいざないました。

4月16日

生活を支える施設を見学  
それぞれの役割を理解



胆沢ダム、胆沢第一発電所、胆沢第三発電所の見学会が胆沢若柳の現地で開催されました。施設内部が公開され、職員が役割や特徴を説明。参加者は見学を通し、生活を支える施設への理解を深めました。家族で参加した盛岡市の佐々木愛琉さん(小学6年)は「楽しかったので、自由研究のテーマにしてもっと調べたい」と笑顔で話しました。

4月17日

一斉清掃で  
山と川を美しい姿へ



3年ぶりとなる第28回「山と川のクリーン作戦」が衣川地域の各地区で行われました。外の沢地区では、地域住民27人が参加し、手分けしながら道路沿いを清掃。空き缶や炊飯器など不法に投棄されたごみを拾い集め、地域の環境美化に努めました。収集したごみは、市建設業協会衣川支部の加入企業がトラックで回収し、処分場へと運びました。